



図-9

反射法探査結果のフェンスダイアグラム

基準ボーリングと反射法探査結果の層序を対比・追跡することにより、地質モデルを作成する基準となる鍵層のある程度の分布を予想することができる。これをもとに想定地質断面図を作成した。

なお、京都府南部のB1, B2測線では単独の測線であり、基準ボーリングも存在しないが、表層地質の情報として鍵層になるMa1・ピンク火山灰（約100万年前）、福田火山灰（約175万年前）が存在しており、地表情報とB1, B2の探査結果から想定地質断面を作成した。